

第59期 株主通信

2025年4月1日 - 2026年3月31日



資本効率性を踏まえた 成長戦略を推進

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業へのご理解とともに格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第59期（2025年4月1日～2026年3月31日）の営業状況をご報告申し上げ、中期経営計画にもとづく取り組みの進展と今後の見通しをご説明させていただきます。

2026年6月

代表取締役社長 **加納 慎也**



A **Q** 2026年3月期を振り返り、営業状況をご説明願います。

オフィスの移転・リニューアル需要が継続する中、可動間仕切やトイレブースを中心にすべての品目で売上を伸ばし、また「マイティスマートレール」など高付加価値製品の販売増加が利益を押し上げ、好調に推移した1年でした。結果として売上高および各利益は、期初予想をやや上回る形で増収・増益し、過去最高業績の更新を果たしました。受注面も、文化施設の大型案件獲得により移動間仕切が増加するなど順調に拡大し、過去最高水準の期末受注残高を保持しています。

営業活動においては、引き続き各地ショールームを活用した取り組みが成果を上げています。特に上期に東京ショールーム「101 TOKYO SHOWROOM OFFICE」が第38回日経ニューオフィス賞の「ニューオフィス推進賞 クリエイティブ・オ

フィス賞」を受賞したことは、当社が提案するオフィス空間づくりに対するお客様の高い関心を喚起し、受注獲得に大きく寄与しました。東京ショールームでは、著名建築家を講師に招いた設計士向けセミナーも開催し、お客様との接点を広げています。また2025年7月には、名古屋ショールーム「Show Move Hub Nagoya」を増床し、展示機能を拡充しました。

2026年3月期は、このショールーム増床費用に加えて加賀工場2号棟建設関連の費用が発生し、設備投資額が大きく増加した他、ベースアップに伴う人件費の上昇などが販管費の増加要因となりました。

それをこなして過去最高の利益を確保した当期の業績には、冒頭に述べました高付加価値製品の販売増加による貢献とともに、近年進めてきた価格適正化の効果が表れ

ています。販売価格を上げてもお客様から製品を選んでいただけるように、設計から製造、営業まで細かな対応

を行い、「稼ぐ力」をしっかりとつけてきた成果と捉え、高く評価したいと思います。

A **Q** 3年目を終えた中期経営計画の進捗をお聞かせください。

中期経営計画「NEXT VISION 2028」（2024年3月期～2028年3月期）は、「既存間仕切事業の成長」「新規製品の創出」「生産・物流オペレーションの高度化」の三つを基本方針に定め、業績目標として「売上高年平均成長率4～6%（2023年3月期基準）」「売上高営業利益率8～10%」「ROE 8%以上」の達成を目指しています。

5ヶ年計画の3年目を終えた現在の進捗を述べますと、2026年3月期の業績は、売上高が前期比4.7%増の成長を示し、売上高営業利益率はすでに8.8%、ROEは7.9%に達しており、極めて順調に推移しています。

基本方針にもとづく取り組みは、この3年間で可動間仕切の売上が着実に拡大し、成長を牽引する一方、新規製品についても、スティールパーティション「STEERA」やトイレブース「haremo」、高層建築に対応可能な外装用移動間仕切「SKYDOOR」などの投入が成果につながっています。生産・

物流オペレーションに関しては、大阪サービスセンターの倉庫機能を拡充すべく、移転による対応を進めています。そして今後は、2027年5月に予定している加賀工場2号棟の稼働により、生産能力の増強と出荷機能の強化を図っていく考えです。

計画4年目の2027年3月期は、大型案件を獲得した移動間仕切を中心とする潤沢な受注残高が売上につながり、またオフィス関連需要も引き続き堅調に推移すると見られることから、増収・増益を予想しています。

なお足もとでは、中東情勢の悪化による市場およびサプライチェーンへの影響が懸念されています。当社においても、製品塗装用の溶剤を中心とする材料の供給が逼迫し、生産に影響が生じる可能性について2026年3月末に公表しました。今のところ具体的な影響に至っていませんが、先の見通しは依然不透明であり、状況を的確に捉えて迅速に対応する体制を整えています。

A **Q** 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

「NEXT VISION 2028」は、計画期間中の株主還元について「DOE 6%を目安とする」方針を掲げています。これにもとづき今回の期末配当を1株当たり65円とさせていただき、2026年3月期の年間配当額は、同65円の中間配当と合わせて同130円、DOEは5.9%となりました。2024年10月1日付で1：2の株式分割を実施しているため、前期の年間配当額に分割の影響を勘案し、

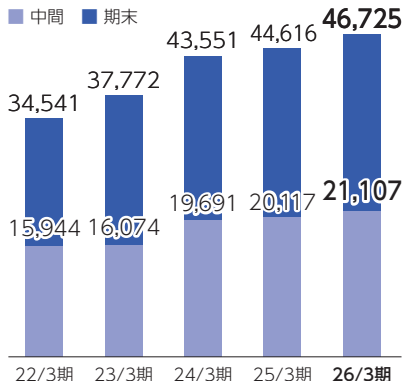
実質的に比較すると2倍の水準となる大幅増配です。

近年、売上高・利益の成長とともに資本効率の改善が進み、株主還元の拡充にも注力していることが株式市場において評価され、当社株式はこれまで以上に多くのご支援をいただいております。さらなる企業価値の拡大に努め、株主の皆様のご期待に応えてまいります。

業績ハイライト

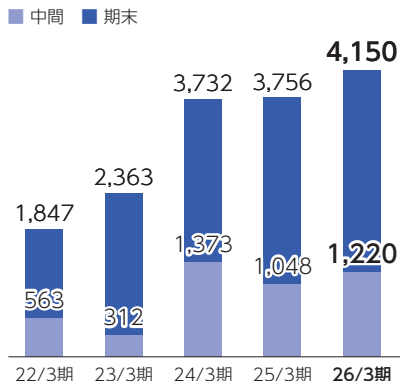
売上高

(単位：百万円)



経常利益

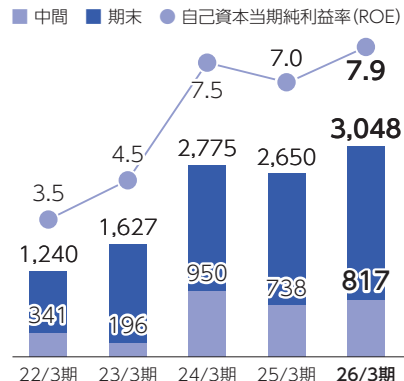
(単位：百万円)



当期純利益

(単位：百万円)

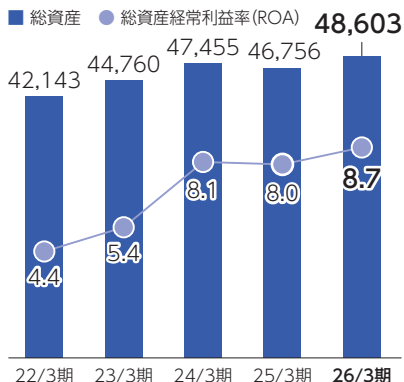
自己資本当期純利益率(ROE) (単位：%)



総資産

(単位：百万円)

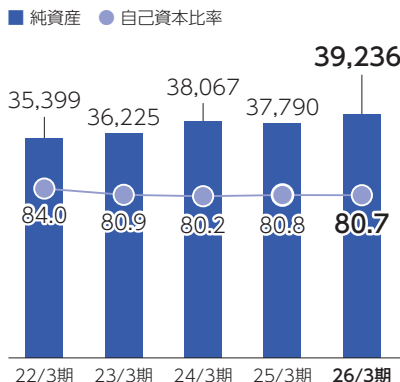
総資産経常利益率(ROA) (単位：%)



純資産

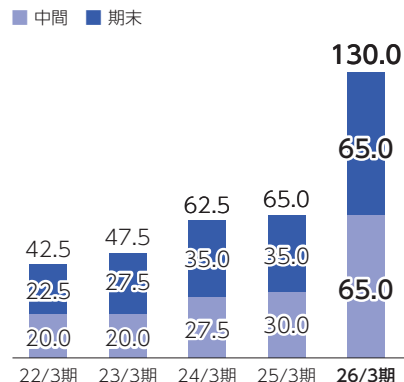
(単位：百万円)

自己資本比率 (単位：%)



1株当たり配当金

(単位：円)



※2024年10月1日付で1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。過年度の配当金についても遡及修正しております。

決算情報の詳細は、小松ウオール工業のWebサイトでもご紹介しています。

<https://www.komatsuwall.co.jp/ir/library/>



財務諸表要旨

貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 2024年4月1日～ 2025年3月31日	当事業年度 2025年4月1日～ 2026年3月31日
資産の部		
流動資産	31,322	27,189
固定資産	15,433	21,414
有形固定資産	12,260	18,142
無形固定資産	415	431
投資その他の資産	2,757	2,840
資産合計	46,756	48,603
負債の部		
流動負債	6,373	6,713
固定負債	2,592	2,653
負債合計	8,965	9,367
純資産の部		
株主資本	37,701	39,014
資本金	3,099	3,099
資本剰余金	3,031	3,031
利益剰余金	33,776	35,030
自己株式	△ 2,207	△ 2,147
評価・換算差額等	88	222
其他有価証券評価 差額金	88	222
純資産合計	37,790	39,236
負債純資産合計	46,756	48,603

損益計算書

(単位:百万円)

	前事業年度 2024年4月1日～ 2025年3月31日	当事業年度 2025年4月1日～ 2026年3月31日
売上高	44,616	46,725
売上原価	28,857	29,852
売上総利益	15,759	16,873
販売費及び一般管理費	12,123	12,773
営業利益	3,635	4,099
営業外収益	120	51
経常利益	3,756	4,150
特別利益	56	0
特別損失	9	23
税引前当期純利益	3,802	4,128
法人税、住民税及び事業税	1,150	1,112
法人税等調整額	1	△ 33
法人税等合計	1,151	1,079
当期純利益	2,650	3,048

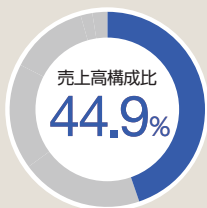
キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前事業年度 2024年4月1日～ 2025年3月31日	当事業年度 2025年4月1日～ 2026年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	3,327	4,385
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 469	△ 6,086
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 2,729	△ 1,803
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	128	△ 3,504
現金及び現金同等物の 期首残高	13,521	13,649
現金及び現金同等物の 期末残高	13,649	10,144

品目別概況

可動間仕切



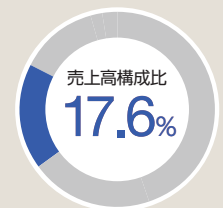
レイアウト変更の際、使用方法に応じて撤去、移設が可能な間仕切であります。

固定間仕切



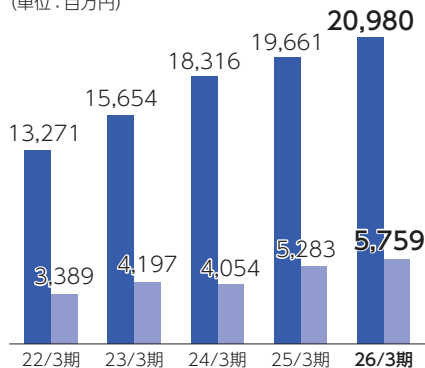
建物付帯工事として溶接により躯体に取付ける間仕切ならびに壁面化粧鋼板パネルの金属工事であります。

トイレブース

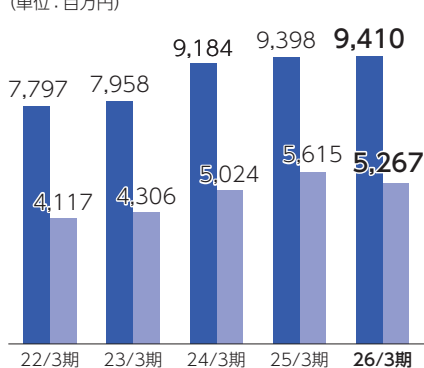


ユニット化したトイレ専用の間仕切であります。

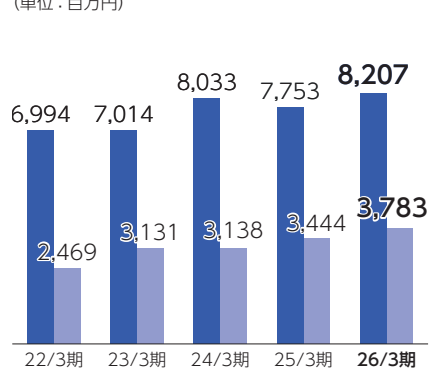
■ 売上高 ■ 期末受注残高
(単位：百万円)



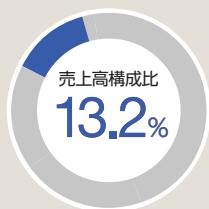
■ 売上高 ■ 期末受注残高
(単位：百万円)



■ 売上高 ■ 期末受注残高
(単位：百万円)

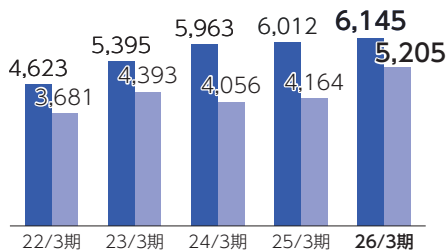


移動間仕切

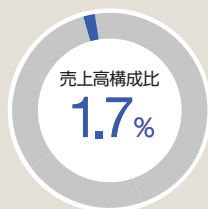


ホテルの宴会場等の間仕切として、ユーザー自身が移動させて使用する間仕切であります。

■ 売上高 ■ 期末受注残高
(単位：百万円)

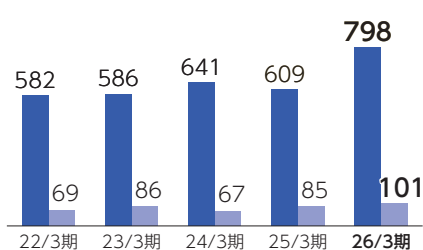


□一間仕切

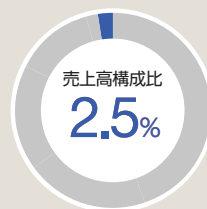


主に、オフィス用衝立およびローパーテーション等のオフィス家具であります。

■ 売上高 ■ 期末受注残高
(単位：百万円)

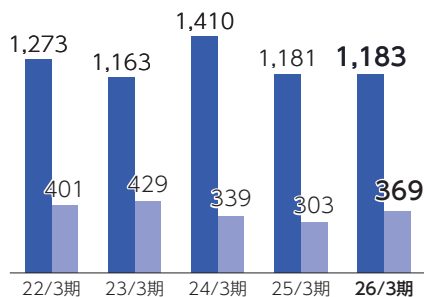


その他



主に、ABW型の働き方に対応した間仕切ならびに既存間仕切の解体・移設組立であります。

■ 売上高 ■ 期末受注残高
(単位：百万円)



高層建築に新たな体験価値をもたらす「SKYDOOR(スカイドア)」

小松ウオールは、高層建築用・外装用移動間仕切「SKYDOOR(スカイドア)」を発売いたしました。「SKYDOOR」は、超高層建築において「眺望」に加え、「外部とのつながり」を実現することで、建物の価値をさらに高める新たな製品です。

01 | 開発背景・市場課題




近年、都心部を中心とした超高層再開発では、効率性や設備性能を重視する時代から、そこで過ごす人々のウェルビーイングを高める体験価値が重視される時代になっています。一方で、実際の高層建築においては、強風や豪雨への対応が技術的な制約となり、外装部分は開閉しない窓が一般的でした。そのため、超高層階ならではの眺望は得られるものの、外の景色はあくまで「眺めるもの」にとどまり、風や空気を感じるような開放感までは実現できていないという課題がありました。こうした課題に対し、「横方向にスライドする外装用移動壁」という発想で応える製品が「SKYDOOR」です。

02 | 製品概要

「SKYDOOR」は高層階にも対応可能な外装用スライディングウォールです。6分割された大型ガラスパネルを用いており、必要に応じてフルオープンが可能となります。当社が長年培ってきた大型移動壁の技術を応用することで、安全かつ滑らかな開閉を実現しています。

また、外装用建材に求められる耐風圧性・気密性・水密性の3つの基本性能において、JIS最高等級をクリアしており、超高層階の過酷な環境下でも、安心・安全で快適な空間を提供します。

▶性能値

- 
耐風圧性 S-7
 強風による圧力にどれくらい耐えられるかを示す性能
- 
気密性 A-4
 隙間をなくし、空気の漏れをどれだけ防げるかを示す性能
- 
水密性 W-5
 雨水の浸入をどれだけの風圧まで防げるかを示す性能

※W・H寸法及び周辺との納まりにより性能は異なります。
 ※サッシ取合い部分の水密機構(WBS機構)は特許出願中です。

03 | SKYDOORの特長



- ①高層階でも空とつながるオープンな空間を創出できること
- ②建築デザインや用途に応じたオーダーメイド対応が可能であること
- ③居心地のよさを支える機能性
- ④長年蓄積してきた大型移動壁の技術と実績に裏付けられた信頼性

「SKYDOOR」は、当社がこれまで培ってきた空間づくりの技術を生かし、新たな用途に挑戦した製品です。人々の過ごし方や建物に求められる価値が変化中、オフィスや商業施設、ホテル、文教施設など多様な分野での活用を想定しています。今後も当社は、建築空間の価値向上に貢献する製品開発に取り組んでまいります。

「SKYDOOR」の新製品発表会を開催

2026年3月18日、港区・芝浦の「BLUE FRONT SHIBAURA」にて、「SKYDOOR」の新製品発表会を開催しました。当日は、当社代表取締役社長の加納慎也が挨拶を行い、続いて開発を担当したランニングウォール事業部長の田畑慎一が製品説明を行いました。後半には、事業構想大学院大学客員教授の鏡晋吾氏を進行役に、楨総合計画事務所代表取締役の亀本ゲーリー氏によるトークセッションを実施。地上約138mの高層階において、実機によるデモンストレーションも行われました。



ウェブサイト「SKYDOOR」紹介ページ ▶
<https://www.komatsuwall.co.jp/special/194.html>



「SKYDOOR」の新製品発表会の
詳細をご覧ください。▶
<https://www.komatsuwall.co.jp/news/622.html>



小松ウォール工業と乃村工藝社 ユニットファニチャー「KICHI+(キチタス)」を共同開発

小松ウォールは、空間の総合プロデュース企業である株式会社乃村工藝社と共同で開発した新製品「KICHI+(キチタス)」を、発売いたしました。

「KICHI+」は、シェルフが持つ高い収納性に、デスクとしての居住性を掛け合わせたユニットファニチャーです。多様な空間に馴染む必要最小限に削ぎ落としたデザインと、工具を使わずユーザー自身が手軽にオフィスなど空間のレイアウトを変更できる点が特長です。

本製品は「空間をワクワクさせる成長型の“基地”」をコンセプトに、いつもの居場所を自由に拡張しながらユーザーとともに成長していくことを目指しています。幅2400mmの大きなスパンと細いフレームにより、空間に抜け感を生み出し馴染むデザインとしました。一人でも集中



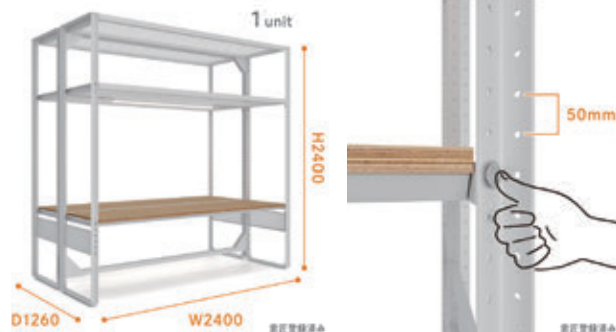
商標登録出願中・商願 2026-003397

しやすく、人と人が自然に交わりやすい寸法とすることで、個の作業とコミュニケーションの両立を実現しました。

開発は、乃村工藝社の社内研究開発組織「未来創造研究所」による未来のオフィス研究を起点とし、当社が長年培ってきた空間を機能的に仕切る技術と両社の知見を融合することで実現しました。

変化の激しい現代の働く環境において、セットアップオフィスをはじめ、商業施設・ホテル・工場などのバックオフィス、教育・研究機関の執務エリア・研究室・アトリエなど、変化に柔軟な働き方や、専門性・プロジェクト性の高い働き方を特徴とする場所への導入を想定しています。

※「KICHI+」は商標登録出願中です。(商願2026-003397) (2026年4月時点情報)



ウェブサイト「KICHI+(キチタス)」紹介ページ ▶
<https://www.komatsuwall.co.jp/news/627.html>



サステナビリティへの取り組み

社会

トイレの行列問題に応える 可変式スライディングウォール

女性用トイレでは長い待ち時間が発生しやすく、以前から多くの施設で「並ぶことが当たり前」とされてきました。この問題は、女性の社会参画を支えるうえで無視できない課題として、各地の事業所や公共施設で改善が求められています。その課題に対し、当社の移動間仕切「小松ランニング」を活用した解決策が注目されています。女性用トイレと男性用トイレの間に、「動く壁」である「小松ランニング」を設置することで、利用状況に応じてトイレの個室数を柔軟に調整することが可能です。また、その性能を活かし、遮音性や安全性にも配慮した設計とすることで、誰もが安心して利用できるトイレ空間を実現しています。

こうした取り組みは、女性用トイレの行列問題解消に向けた事例として評価され、内閣府男女共同参画局の対策事例としても紹介されました。



ウェブサイト「トイレの行列問題への取り組み」
紹介ページ ▶

<https://www.komatsuwall.co.jp/special/112.html>



環境

国際環境評価CDPで最高評価帯 「リーダーシップレベル(A-)」初獲得

小松ウォールは、国際的な非営利団体CDPによる2025年度の環境評価において、気候変動分野で最高評価の「A」に次ぐ「A-」評価を獲得しました。両者を合わせたリーダーシップレベルは日本企業の上位約4分の1にあたり、国内製造業の中でも高水準の環境経営を実践している証となります*。水セキュリティ分野においても「B-」の評価を獲得しており、当社の脱炭素および水資源保全への取り組みが、SDGsの達成に確実に貢献しているものとして、国際的に高く評価されました。

*CDP気候変動レポート2023：日本版（2024年公表）における、日本国内回答企業のスコア分布データにもとづく概算



人材

仕事と子育てを両立できる 環境づくりで「くるみん認定」を取得

小松ウォールは2025年10月、「くるみん認定*」を取得しました。今後も、仕事と子育てを両立できる支援を充実させ、多様な人材が働きやすい職場環境の整備を推進してまいります。

*くるみん認定とは、次世代育成支援対策推進法にもとづく行動計画の策定・届出を行った企業のうち、一定の要件を満たした企業について、厚生労働大臣が認定を行う制度です。



会社概要 / 株主メモ (2026年3月31日現在)

会社概要

商号 小松ウォール工業株式会社
(KOMATSU WALL INDUSTRY CO.,LTD)

設立 1968年1月22日

資本金 3,099,945,552円

事業目的 1. スチールおよびアルミニウム製品の製造、
販売ならびに工事施工
2. 室内装備品の販売および設計施工
3. 前各号に附帯する一切の事業

従業員数 1,446名

(注) 従業員数には、嘱託およびパートタイマー (計41名) は含まれておりません。

取締役一覧 (2026年6月18日現在)

代表取締役社長執行役員 加納 慎也

取締役常務執行役員 綾 由紀夫

取締役 山田 新一

取締役 蜂谷 俊雄

取締役 古谷 まゆみ

取締役常勤監査等委員 比嘉 正人

取締役監査等委員 中田 浩一

取締役監査等委員 松山 純子

(注) 取締役 蜂谷俊雄氏、古谷まゆみ氏、中田浩一氏および松山純子氏は社外取締役であります。

株式の状況

発行可能株式総数 50,000,000株 単元株式数 100株

発行済株式の総数 19,721,980株 株主数 19,019名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
KANO株式会社	3,463,698	19.29
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,613,000	8.99
小松ウォール工業従業員持株会	801,880	4.47
株式会社日本カストディ銀行	777,800	4.33
原田株式会社	360,000	2.01
加納 裕	322,024	1.79
BBH BOSTON FOR NOMURA JAPAN SMALLER CAPITALIZATION FUND 620065	315,400	1.76
明治安田生命保険相互会社	309,200	1.72
INTERACTIVE BROKERS LLC	220,900	1.23
有限会社マルヨ	193,000	1.08

(注) 1. 持株比率は自己株式 (1,769,916株) を控除して計算しております。
2. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社および株式会社日本カストディ銀行の持株数は、信託業務に係るものであります。
3. 株式会社日本カストディ銀行が保有する777,800株には、「株式給付信託(BBT)」に係る信託財産351,200株が含まれております。

所有者別株式数分布

※自己株式は一般国内法人に含んでおります。

一般国内法人 34.07%	個人・その他 44.96%	金融機関 15.18%
外国人等4.70%		証券会社1.09%

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

上場取引所 東京証券取引所 プライム市場

株主確定の基準日 定時株主総会、期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

定時株主総会 6月

単元株式数 100株

公告方法 電子公告 (<https://www.komatsuwall.co.jp>)
ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社

小松ウォール工業株式会社

石川県小松市工業団地1丁目72番地
www.komatsuwall.co.jp



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

